

問 新型コロナウイルスに係る経済対策の効果が規模の大きい宿泊施設に偏っていると聞か、どう捉えているか。

答 7月から10月の宿泊数は前年同月の7割から9割まで回復し、県平均と比較しても高くなっており、「かづのに泊ってエールキャンペーン」の効果が表れている。

八幡平温泉郷について

問 政策の効果がでないが、活性化に向けた取り組みを強化するべきでは。

答 旅行ニーズの多様化に加えインターネットを活用した、旅行者の興味を引き付ける情報発信が十分ではないことも減少要因の一つと考えている。

こうした状況を踏まえ、秋田八幡平スキー場周辺を核とし、エリア全体の魅力アップを図るための構想を今年度末までに取りまとめることとしている。

湯の駅おおゆと大湯温泉の活性化について

問 湯の駅おおゆについて地域への経済波及効果などをどのように検証しているのか。

また、利用者の増加に向けて積極的に進めてほしいが、その考えは。

答 施設については大湯地区における気軽な立ち寄り施設として定着している。また、大湯温泉の活性化についても、住民との交流を深めながら地域のニーズに見合った運営を続けており、おおむね計画どおりである。

運営については、想定を上回る入込客数により施設の収容規模と飲食需要のミスマッチなども課題となっている。訪れやすく滞留時間の延長につながるような取り組みを積極的に展開していく。



田口 裕 議員
(無会派)

質問した項目

- 新型コロナウイルス感染者発生に伴う鹿角の観光業への影響と取り組みについて
- 国立公園満喫プロジェクトの効果について
- 八幡平温泉郷の活性化に向けた取り組みについて
- 湯の駅おおゆと大湯温泉の活性化について



録画配信はこちらから

問 大湯地区へのスーパーマーケットを政策的に誘致する考えはないか。

答 政策的に誘致する考えはないが、地域の助け合いや民間活力による店舗の開業、スーパーなどの移動支援については、必要な支援を検討する。

第7次総合計画について

問 本市のまちづくりについて、どのような方向を見据えているのか。また、第7次総合計画を策定するに当たり、どのような視点を盛り込むのか。

答 将来都市像を「ふるさとを誇り、未来を拓くまち 鹿角」とし、すべての市民がふるさとに誇りを持ち、ふるさとと鹿角の価値を最大限に生かしながら、新たな時代へ自分らしくチャレンジすること、市民一人一人が幸せで、未来に希望を抱いて暮らせるまちの実現を目指す。基本姿勢としては、「暮らしの

戸田 芳孝 議員
(無会派)



質問した項目

- 第7次総合計画について
- 大湯地区住民の生活利便性の確保に向けた「スーパーマーケット誘致」について
- 学校でのいじめ・不登校問題について

幸福度を高めるまちづくり」、「共動によるまちづくり」、「次代につながるまちづくり」の3つを掲げている。

学校でのいじめ・不登校問題について

問 いじめは児童生徒の心身の健全な発達に重大な影響を及ぼし、不登校や身体の不健全を脅かすなど、深刻な事態を引き起こす恐れがあるが、本市の現状は。

答 全小中学校を合わせたいじめの認知件数は、本年度は多い月が75件、少ない月が24件で11月の不登校者は31人である。なお、現在のところいじめを要因とした不登校者は出ていない。



録画配信はこちらから